

「家守り」的つくり手に適した暖房

り、今後、木材利用の推進施策でさらに身近になっていく可能性もある。

ただ、日常的なメンテナンスが必須だったり、ユーザーにとって面倒な部分もある。補助事業を実施している、ある自治体が利用者に対して行った利用後の感想ア

ンケートでは、定期的なメンテナンスを行ってほしいという要望が強かったという結果もある。普及にはプロのサポートが必要だ。そういう意味では、「家守り」的な展開を目指す地域のつくり手が積極的に介在すべき暖房設備とも言える。

6面 木のいえ [森林再生]

ペレットストーブは、エコハウスにおける有力な暖房器具の一つだ。同じバイオマス暖房の薪ストーブに比べると燃料の確保・保管が楽なこともあり、都市部でも採用が増えている。まだ機器本体の価格が高いという問題があるが、エコ設備として補助を行っている自治体もあ



ペレット燃料について説明する工場長の川尻哲也さん

再生するプロジェクトの一環でペレットストーブの普及に取り組む。機種選定から設計施工、アフターメンテナンス、燃料の製造・販売まで一貫したサービスを提供する体制だ。工場長の川尻哲也さん、ペレットストーブの設置・運搬が簡単で、場所を取らず、焚

き付けや掃除も容易で、火力の調節も自動制御。電源は必要になるが、都市部の家でも火のある暮らしを取り入れやすい。1時間の暖房に使うペレット燃料はおよそ1kg。ひと冬の消費量は生活の仕方や暖房方式などによって違いますが、同社が提供するサービスが

家庭では「少ない人で300〜500kgで収まる」と(川尻さん)という。同社のペレット燃料はkg60円なので、ひと冬の暖房費は1万8000円〜3万円になる計算だ。ペレットの原料は、地元製の材所から出る端材やおがくず・カンナくず。これらを木粉にし、成型機で圧縮する。品質をできるだけ安定させるため、素性のわからない解体時の廃材や木の樹皮は用いない。「製材のさまざまなかから原料を集まるので、品質を均一にするのは難しい。だが、木の幹のみを使うため、灰が少なく、燃焼力ロリーの高いペレットができる」と(同)。

東京の木で家を作る会
組合員の東京木質資源活用センター(東京都青梅市042・597・3742)は、地元の森を

再生するプロジェクトの一環でペレットストーブの普及に取り組む。機種選定から設計施工、アフターメンテナンス、燃料の製造・販売まで一貫したサービスを提供する体制だ。



ドイツ・オーストリア・イタリアなど各国のペレットストーブを展示、販売している

ペレットストーブを身近に

日本バウビオロギー研究会(群馬県前橋市、石川恒夫代表)は10月17日、東京・西多摩で住宅セミナーを開催。建築関係者ら約20人が参加し、東京

の森の様子や木の製材・加工工場、モデルハウスなどを見学した。ペレット工場(カコミ

木の家設計室くわくわの巻京子さんが国産材住宅の価格について「坪60万円台が一つの目安」と説明。だが、そこに広告宣伝費などはないことを指

同会の活動に関する問い合わせは事務局(前橋工科大学内027・265・7345)まで。

バウビオロギーの交流 活発化へ

部会で東京の森の多様な役割学



浜中材木店、東京木質資源活用センター、東京の木で家を作る会が共同で建てた多摩産材のモデルハウス「環(たまき)の家」

通信教育スタートの準備も

の森の様子や木の製材・加工工場、モデルハウスなどを見学した。

その後、同社の製材工場やモデルハウスも見学。ミニセミナーも行い、

欧州各国で普及しているバウビオロギー通信教育の日本版も、近い将来スタートする方針。ドイツの実施機関(IBN)と内容を詰めながら、テキスト翻訳などの準備を進めている。協力してくれる人材やスポンサー企業を募集中だ。

な山があり、少し歩けばすがすがしい気持ちになれる。それは、手入れをする人がいればこそ。木材生産は集約化の方向にあるが、一気に進めば小規模な山は皆伐されてしまふ」と話した。

同研究会は現在、バウビオロギー(建築生物学)の考え方を広げようと活動を強化中。当日のセミナーもその一環で、多くの人が現場で学べる機会づくりを目指し同会交流部会が企画した。引き続き11月20日神奈川で、12月12日埼玉で開催する。

えない。手入れを放棄する山が増加している」と話した。森林の公益的機能にも触れ「大都市近郊にこんな静かな山が、少し歩けばすがすがしい気持ちになれる。それは、手入れをする人がいればこそ。木材生産は集約化の方向にあるが、一気に進めば小規模な山は皆伐されてしまふ」と話した。

摘し「ひと口に坪単価と違って、いまは住まい手が実際に手に入れられるモノの値段が分かりにくい。中身をよく説明する必要がある」とした。